

## 注目ポイント

- ✓先週、終わりが全く見えないイラン戦争を背景に原油高がインフレ圧力を強めるとの見方がさらに強まり、市場では「米欧の中央銀行が利下げ路線の修正を迫られるだろう」との観測が急速に高まった。その結果、世界的に「金利上昇&株式下落」の展開となった。
- ✓今週の金融市場では、ドル円は中東情勢と日米金融政策への思惑が交錯し、もみ合いとなりそうだ。エネルギー供給不安や米利下げ観測後退はドル高要因となる一方、為替介入警戒が上値を抑えるだろう。国内金利は米金利上昇やインフレ懸念を背景に強含む展開が見込まれる。そして日経平均は先週末の米株安や日経先物下落を受け下値を探る展開となる可能性が高い。また、機関投資家の損失確定売りが下げ幅を拡大させるリスクには注意が必要だろう。 (門倉英司)

## ①マーケット動向(実績データ)

2026年3月16日

~

2026年3月20日

市場・指標			3月16日 ~ 3月20日		3月20日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
株式	 日本	日経平均 (円)	55,239	53,114	53,373	-447	-0.8%	
	 米国	NYダウ (ドル)	47,428	45,369	45,577	-981	-2.1%	
	 ドイツ	DAX (ポイント)	23,957	22,369	22,380	-1,067	-4.6%	

市場・指標			3月16日 ~ 3月20日		3月20日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			最高	最低	終値	変化幅(%)	
金利 (国債)	 日本	10年 (%)	2.275	2.205	2.260	+0.020	
	 米国	10年 (%)	4.39	4.17	4.38	+0.10	
	 ドイツ	10年 (%)	3.05	2.88	3.04	+0.06	

市場・指標			3月16日 ~ 3月20日		3月20日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	変化幅(円)	
為替	 米ドル (円)		159.90	157.51	159.23	-0.50	
	 ユーロ (円)		184.26	181.87	184.23	+1.87	
	 豪ドル (円)		113.22	111.17	111.82	+0.31	

市場・指標			3月16日 ~ 3月20日		3月20日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
その他	 日本	東証リート (ポイント)	1,987	1,943	1,954	+3	+0.2%	
	 米国	NY原油 (ドル)	102.44	91.96	98.32	-0.4	-0.4%	
		NY金 (ドル)	5,085	4,512	4,610	-489	-9.6%	

(注) Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成。 休日・休場の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。

## ②マーケット動向(振り返り & 予想)

2026年3月23日 ~ 2026年3月27日

### ● 株式

下値を探る展開か

日経平均  
【予想レンジ】 48,000 円 ~ 52,500 円

- 先週の日経平均は小幅下落。週前半は中東情勢悪化を受けた原油高が企業業績を圧迫するとの警戒から続落。一方で原油高が一服した週中には、海外短期筋の買い戻しや米半導体株高を背景に大幅反発。しかし週末には、原油高の再燃や米利下げ観測後退を背景とした内外金利の上昇を受け、急反落して取引終了した。
- 今週の日経平均は下値を探る展開か。先週末、NY市場で米株式が続落した余波から、21日早朝の夜間取引(大証)で日経先物も5万1,020円まで大幅下落。これを受け、週初から9日ザラ場の安値5万1,407円を割り込む可能性もあり、下値を探る展開が予想される。また、機関投資家によるロスカット売りの増加が下げ幅を拡大させるリスクには注意が必要だろう。



### ● 金利 (国債)

金利は強含む展開か

10年国債利回り  
【予想レンジ】 2.240 % ~ 2.320 %

- 先週の国内金利は上昇。週初、中東情勢悪化を受けた原油高に起因するインフレ懸念を背景に、長期金利は上昇気味に取引開始。週中には原油高の一服に伴い、一時低下する場面もあったが、週後半には、FOMC後の会見でパウエル議長が「今会合でも、次の政策変更が利上げになる可能性について議論された」と発言したことが、米利下げ観測を大幅に後退させ、国内金利にも上昇圧力となった。
- 今週の国内金利は強含む展開か。中東情勢の緊迫化によるインフレ懸念を背景に、FRBの利下げ観測が大幅に後退し、米長期金利が上昇基調にあることが、国内金利の押し上げ要因となろう。今週、指標では、24日のCPI(2月)や25日の日銀金融政策決定会合議事要旨(1月分)に注目が集まる。



### 🇺🇸 為替 (米ドル)

もみ合いか

米ドル/円  
【予想レンジ】 158.20 円 ~ 160.20 円

- 先週のドル円は円高ドル安が進展。週中にかけて原油高一服や米金利低下が、また19日にはタカ派と受け止められたECBや英国中銀そして日銀の金融政策がドル売り材料となり、一時1ドル=157.51円まで円高が進展。しかし週末には中東情勢の緊迫化から米長期金利が大幅に上昇したことを受けドルが買い戻され159円台まで反転して終了。
- 今週のドル円はもみ合いか。今週も、ドル円は中東情勢と日米金融政策への思惑が相場を左右する展開となろう。中東情勢緊迫化によるエネルギー供給不安や、FRBの利下げ観測の後退がドル高要因となる一方で、為替(円買いドル売り)介入への警戒感が上値を抑えるだろう。また重要指標は少ないものの、日米のインフレ指標への市場の反応には注意が必要だろう。



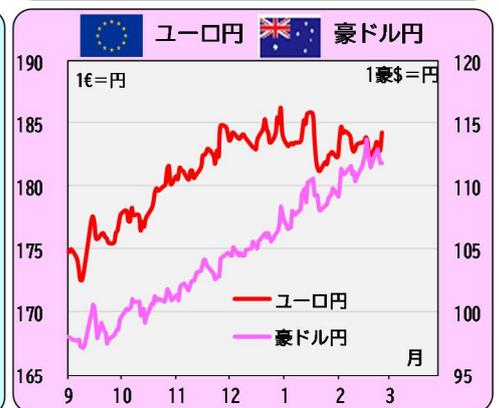
## ○今週の注目指標 ※内容および日程が変更される場合があります。

月日	国内	海外
3/23(月)		
3/24(火)	国債入札(40年) CPI(2月)	米国: 国債入札(2年)
3/25(水)	日銀金融政策決定会合議事要旨(1月開催分)	米国: 国債入札(5年) 米国: 輸出入物価(2月) 米国: 経常収支(10~12月)
3/26(木)	企業向けサービス価格指数(2月)	米国: 国債入札(7年)
3/27(金)	株式3月末権利付き取引最終日	米国: ミシガン大学消費者態度指数(3月)確報値



## ③その他チャート集

直近6か月



### ※頻出英字略称用語一覧

略称	正式名称	略称	正式名称	略称	正式名称
ADP	米国の給与計算代行大手会社	FOMC	米公開市場委員会	PBR	株価純資産倍率
AI	人工知能	FRB	米連邦準備理事会	PCE	個人消費支出
CTA	商品投資顧問	FTA	自由貿易協定	PER	株価収益率
CTFC	米商品先物取引委員会	GDP	国内総生産	PMI	購買担当者景気指数
CPI	消費者物価指数	IMF	国際通貨基金	PPI	卸売物価指数(生産者物価指数)
ECB	欧州中央銀行	IEA	国際エネルギー機関	SQ	特別清算指数
ETF	上場投資信託	ISM	米供給管理協会	TPP	環太平洋経済連携協定
EU	欧州連合	OECD	経済協力開発機構	WSTS	世界半導体市場統計
FDI	海外直接投資	OPEC	石油輸出国機構	WTI	ウエストテキサスインターメディアート(原油)
FF	フェデラルファンド	OPEC+	OPEC加盟国と非加盟国の枠組み		

### ●ご留意事項

- ・本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前6時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客さまご自身でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いいたします。